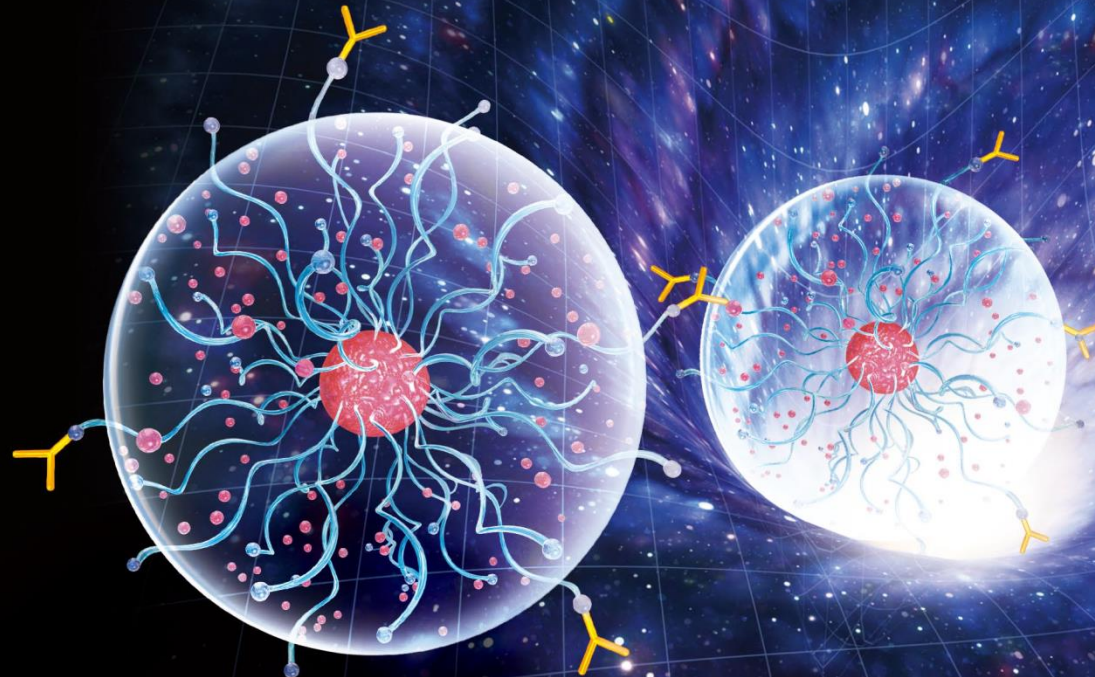


February 23, 2016



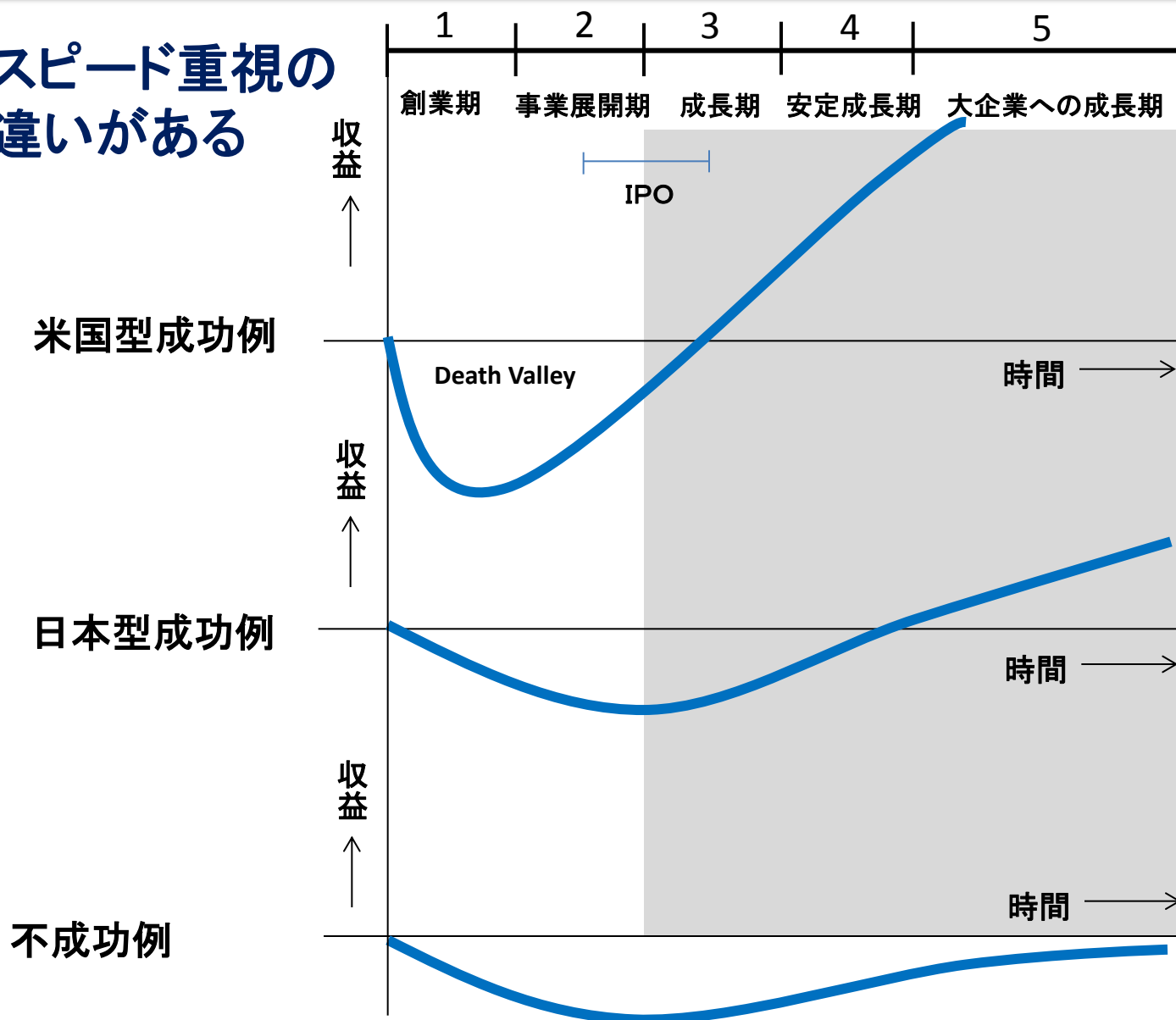
Tokyo Stock Exchange
4571

ナノキャリア株式会社



Ichiro Nakatomi Ph.D.
President & CEO
NanoCarrier Co.,Ltd.
Japan

資金力とスピード重視の
米国とは違いがある



*1国内バイオベンチャー： シード・技術は米国と同レベルという前提

*2現状と必要性： 米国バイオベンチャーの環境と対比

自前で創薬するベンチャー企業の成功前例がない。
需要に対して供給できていない現状を改善できるか？

現状*2

支援(供給)サイト

必要性*2

1. 創業期

知財管理/事務所不足	← 弁理士事務所/不動産・生保・銀行系、政府系(SME)	++
資本金不足	← エンジェル	++++
人材不足	← 経験者の流動性	+++
基礎研究支援不足	← 政府系、生保・銀行系ベンチャーキャピタル(VC)	+++
規制緩和	← 規制当局(ベンチャー対応、透明性確保)	+++

2. 事業展開期

研究施設不足	← 政府系(中小機構)、民間系	+++
人材不足	← 経験者流動性、入局管理局(海外研究者の受け入れ)、 大手企業からの流出	++
研究費不足	← 政府系、VC、ファンド系、大手企業との連携	+++
規制緩和	← 規制当局(ベンチャー対応、透明性確保)	+++

IPO(株式上場)



	現状* ²	支援(供給)サイト	必要性* ²
3. 成長期			
↑ IPO (株式上場)	研究開発資金不足	← 大手企業との連携、VC、ファンド系	+++
	臨床開発資金不足	← 大手企業との連携、政府系、VC、ファンド系	+++
	臨床開発支援不足	← 規制当局 (治験組織体制の改善、仮承認制度の導入)	++++
	投資環境が悪い	← バイオアナリストの増員、 証券取引所の投資環境を完全	++
4. 安定成長期			
	出口不足	← 大手企業とのM&Aや提携	+++
	薬価対応	← 規制当局 (国内初創薬・製品を最優先)	++++
5. 大企業への成長期			
	薬価対応不足	← 規制当局 (エビデンスに基づく適用外使用の認可)	++++
	グローバル化不足	← 大手企業との提携、大投資	+++

*²現状と必要性: 米国バイオベンチャーの環境と対比

政策ビジョンをベースにゴールを策定

ビジョン:

ヘルスケア(HC)を次世代産業の第一優先テーマにする

ミッション:

バイオベンチャーをその中心的活動に位置付ける

ゴール:

2030年までに国内バイオベンチャーにより創作された承認製品を100まで伸ばす

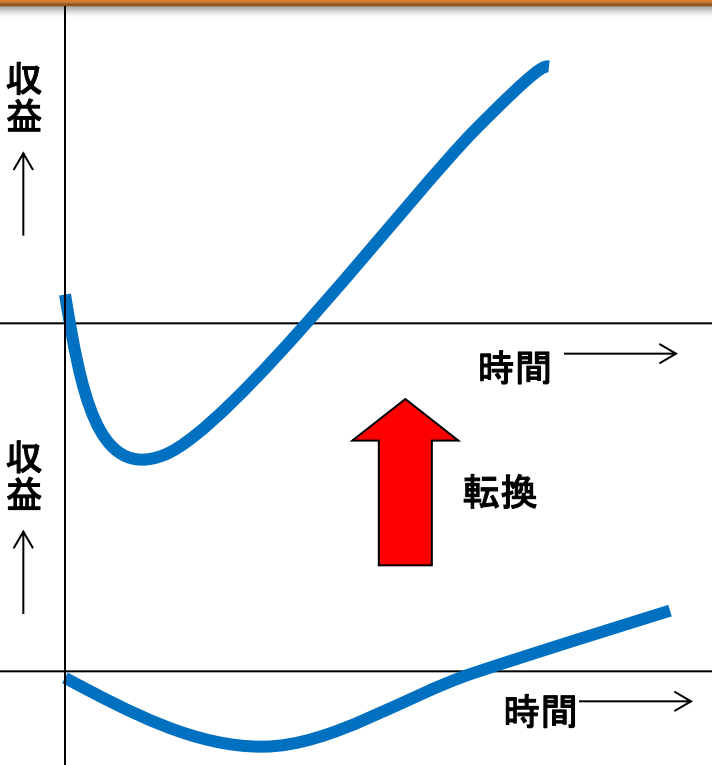
資金力と規制緩和:

日本独自の政策によりHC産業の成長を実現化する

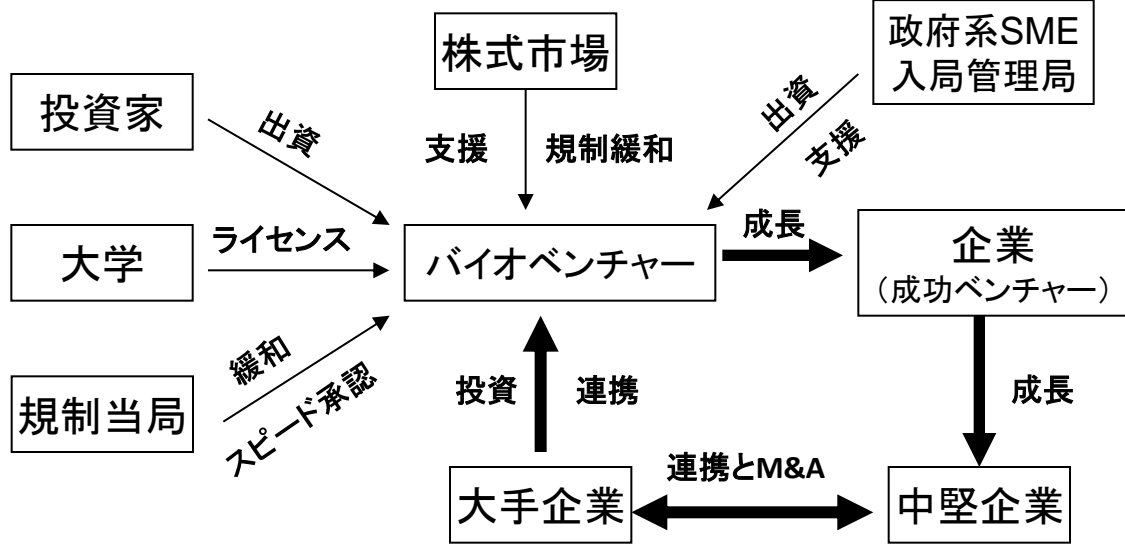
貿易収支の改善:

国内生産と雇用創出から新興国などアジア成長に日本がリードする

国内型成功例を米国型成功例に転換するには何をするべきか？



高額投資できる環境と規制緩和を利用してWIN-WIN状況をつくれる仕組みを取り入れる



一つの有効的手法として

スピード承認と大手企業との連携が成長ベンチャーを増やす担い手になる。

- ・承認制度や薬価制度の改革(再生医療と遺伝子治療承認制度を他にも転換するなど、開発経費を考慮した制度など。)
- ・大手企業からの人材と資金の流出に応じた優遇制度を導入する。(企業からベンチャー開発への流出資金や流出人材を税制免除する)